



瓦職人 末吉真也さん

すえよし・しんや 1982年生まれ、樺上在住。有限会社丸宗瓦勤務。一級かわらぶき技能士。趣味は少林寺拳法

瓦職人とは一般家庭などの屋根に瓦をふく、高度な専門技術を持つ職人です。そんな瓦のプロフェッショナルが末吉真也さんです。

「修業中は自分に厳しくあることを一番に求められました」職人の仕事はどこまで手をかけるかを自分で決めなくてはならない人間味の出る仕事です。「いい仕事をして、お客さんに喜んでもらいたい」と、笑顔を見せます。

瓦は施工の仕方やメンテナンス次第で40〜50年持たせることができます。瓦を長持ちさせて、いつまでも安心してお客さんに毎日の生活を送ってほしいと、末吉さんは常に真摯な姿勢で仕事に臨んできました。

瓦をふく技術は日々進歩し、寺の解体工事で昔の技法が分かることもあります。そのため、休みの日にも研修会に参加するなど技術の習得に余念はありません。多忙な末吉さんの支えとなっているのはいつも応援してくれる家族の存在です。「最近、息子が瓦職人になりたいと言いついて」と、顔をほ

ころばせます。

「もし、息子が瓦職人になったらときに、私がいなくても、私の手がけた瓦を見れば、技術は伝わります。そのためにも、いつそう気を引き締めて頑張らなくては」と、瞳に力強さがにじみます。

「耐久性に優れた美しい日本瓦の素晴らしさを伝えていきたいですね。なので、瓦職人になりたい人がいれば、しっかりと育てていきたい。そして、雇用を作って荒尾を元気にしたい。そのためには受け皿になる私たちがもっと力をつけなければなりません」高校卒業後、京都で修業を積み、20歳のときに古里・荒尾に戻ってきた末吉さん。地元で働きたいという思いが強かったと言います。「子どもの頃からお世話になってきたので、少しでも恩返しをしたいです」と、目を細めます。「自分がふいた瓦が古里の景色になっていくのはこの上ないこと。まだまだ技術を高めたいし、いつかは技能五輪<sup>※</sup>へも出場したい」若き職人の挑戦は続きます。

※青年技能者の技能レベルの日本一を競う技能競技大会



1・2 昨年11月、瓦技能競技九州大会で優勝しました。3 平成22年、法隆寺(奈良県)のふき替え工事に参加しました。共に参加した修業時代の仲間は今でも大切な良き理解者です。最後列の左が末吉さん